



# セットアップウィザードを使用した Cisco Cloud Network Controller の構成

- [サイト間接続の設定と展開 \(1 ページ\)](#)
- [オンプレミス設定情報の収集 \(2 ページ\)](#)
- [サイト、リージョン、および CCR の数の制限について \(2 ページ\)](#)
- [クラウドリソースの命名 \(3 ページ\)](#)
- [Cisco Cloud Network Controller の IP アドレスの特定 \(8 ページ\)](#)
- [セットアップウィザードを使用した Cisco Cloud Network Controller の構成 \(10 ページ\)](#)
- [Cisco Cloud Network Controller セットアップウィザードの構成の確認 \(23 ページ\)](#)

## サイト間接続の設定と展開

オンプレミスサイトをクラウドサイトに接続する場合は、Cisco Cloud ネットワークコントローラの構成と展開を開始する前に、マルチサイトとオンプレミスの Cisco ACI を構成して展開する必要があります。それぞれの実際の設定は、要件と設定によって異なります。オンプレミスサイトをクラウドサイトに接続する場合は、Microsoft Azure で Cisco Cloud Network Controller によって展開された Cisco Cloud Services Router に接続するために、オンプレミスの IPsec 終端デバイスを構成して展開する必要もあります。詳細については、「[Cisco ACI ファブリックをパブリッククラウドに拡張するためのコンポーネント](#)」を参照してください。

次に、これらのコンポーネントの設定と展開のプロセスを支援するドキュメントを示します。

- Cisco ACI マニュアル：『[Cisco Application Policy Infrastructure Controller \(APIC\) のマニュアル](#)（『[Operating Cisco Application Centric Infrastructure](#)』および『[Cisco APIC Basic Configuration Guide](#)』など）で入手できます。
- Nexus Dashboard のマニュアル：[Nexus Dashboard のマニュアル](#)で入手できます。Multi-Site Orchestrator 設置およびアップグレードガイドなどがあります。
- Cisco Catalyst 8000v Edge ソフトウェアのマニュアル：[Cisco Catalyst 8000v Edge ソフトウェアのマニュアル](#)で入手できます。

# オンプレミス設定情報の収集



(注) Cisco Cloud Network Controller のクラウドサイト間接続のみを設定する場合は、このセクションの情報を収集する必要はありません。

次のリストを使用して、Cisco Cloud Network Controller をセットアップするためにこれらの手順全体で必要なオンプレミスの設定情報を収集し、記録します。

必要なオンプレミス情報	入力する値
オンプレミスの IPsec デバイスのパブリック IP アドレス	
IPsec 終端デバイスから CSR への OSPF エリア	
オンプレミス APIC IP アドレス	
Cisco Cloud Network Controller IP アドレス	

## サイト、リージョン、および CCR の数の制限について

このドキュメントでは、サイト、リージョン、および CCR のさまざまな設定を決定するよう求められます。次に、それぞれの設定を決定する際に留意すべき制限事項のリストを示します。

### サイト

Cisco Cloud Network Controller を使用できるサイトの合計数は、セットアップする構成のタイプによって異なります。

- **オンプレミスの ACI サイト間構成 (AWS または Azure)** : Multi-Site マルチクラウド展開は、1 つまたは 2 つのクラウドサイト (AWS または Azure) と最大 1 つまたは 2 つのオンプレミス サイトの任意の組み合わせをサポートします。合計のサイト数は 4 つになります。接続オプションは次のとおりです。

  - Hybrid-Cloud : オンプレミスから単一のクラウドサイトへの接続
  - Hybrid Multi-Cloud : オンプレミスから複数のクラウドサイトへの接続
- **マルチクラウド : クラウドサイト間接続 (AWS または Azure)** : マルチサイト マルチクラウド展開は次の組み合わせをサポートします。

  - EVPN 展開モードの 2 つのクラウドサイト (AWS と Azure のみ)
  - BGP IPv4 デプロイ モードの 3 つのクラウド (AWS、Azure、Google Cloud)

Google Cloud から Google Cloud への接続は、BGP IPv4 または BGP EVPN のいずれでもまだサポートされていません。

- **クラウド ファースト：単一クラウド構成**：マルチサイト マルチクラウド展開は、単一のクラウドサイト（AWS、Azure または GCP）もサポートします。

## 地域

サポートされるリージョンの制限は次のとおりです。

- AWS および Azure クラウドで 16 のリージョンを管理できます。16 のリージョンのうち、4 つのリージョンのみが外部接続可能です。16 のリージョンすべてをワークロードのデプロイに使用できます。
- すべてのリージョンを Google Cloud で管理できます。ワークロードの展開には 16 のリージョンを使用できますが、外部接続に使用できるのは 4 つのリージョンのみです。

## CCR

一部のリージョン内には一定数の CCR を含めることができますが、次の制限があります。

- VNET 間（Azure）、VPC 間（AWS）、または VRF 間通信を行うには、少なくとも 1 つのリージョンに CCR を展開する必要があります。
- すべてのリージョンに CCR がある必要はありません。
- 接続を有効にするために CCR が展開されているリージョンの場合：
  - CCR は、4 つの管理対象リージョンすべてに展開できます。
  - 管理対象リージョンごとに最大 8 つの CCR がサポートされ、クラウドサイトごとに合計 32 の CCR がサポートされます。CCR の数の増加の詳細については、*Cisco Cloud Network Controller for Azure ユーザー ガイド* を参照してください。



(注) 管理対象リージョンあたりの CCR の数は、AWS と Azure では異なります。AWS ではリージョンごとに 4 つの CCR がサポートされ、Azure では、リージョンごとに 8 つの CCR がサポートされます。

- Cisco Cloud Network Controller による Google Cloud での CCR 展開はまだサポートされていません。

# クラウドリソースの命名

Cisco Cloud Network Controller でグローバルネーミングポリシーを作成できます。これにより、Cisco Cloud Network Controller から Azure クラウドに展開されたすべてのオブジェクトのカスタ

クラウドリソース命名規則を定義できます。Cisco Cloud ネットワーク コントローラ ARM テンプレートの導入に使用される情報技術 **グループ**名を除き、Cisco Cloud ネットワーク コントローラの初回セットアップウィザードで、すべてのクラウドリソースのカスタム命名ルールを定義できます。テンプレートのリソースグループ名は、最初に展開したときに定義され、その後は変更できません。グローバルポリシーに加えて、REST API を使用して各 Cisco Cloud Network Controller オブジェクトから作成されたクラウドリソースの名前を明示的に定義することもできます。

レイヤ4からレイヤ7サービスの展開では、ネットワークロードバランサ、アプリケーションロードバランサ、デバイスアプリケーションセキュリティグループなどのクラウドリソースにカスタム名を指定できます。



- (注) カスタムネーミングポリシーを使用しても、クラウドリソースが作成されると、名前を変更できないことに注意してください。既存のクラウドリソースの名前を変更する場合は、構成したすべてのクラウドリソースを削除して再作成する必要があります。削除されるクラウドリソースには、overlay-2 CIDR とサブネット、Cisco Cloud Network Controller によって展開された Cisco Cloud Router が含まれます。したがって、CCR からすべてのリモートサイトへの IPSec トンネルが含まれます。

## 命名ルールに使用できる変数

クラウドリソースの命名ポリシーを作成する場合、次の変数を使用して、Cisco Cloud Network Controller オブジェクトに基づいてクラウドリソースの名前を動的に定義できます。

- `{tenant}` –リソースにはテナントの名前が含まれます
- `{ctx}` –リソースにはVRFの名前が含まれます。
- `{ctxprofile}` : リソースにはクラウドコンテキストプロファイルが含まれます。これは、特定のクラウド領域に導入されたVRFです。
- `{subnet}` : リソースには文字列subnetの後にサブネットIPアドレスが含まれます。
- `{app}` : リソースにはアプリケーションプロファイルの名前が含まれます。
- `{epg}` : リソースにはEPGの名前が含まれます。
- `{contract}` –リソースには契約の名前が含まれます
- `{region}` –リソースにはクラウドリージョンの名前が含まれます。
- `{priority}` : リソースにはネットワークセキュリティグループ (NSG) ルールの優先度が含まれます。この番号は、各NSGルール名が一意になるように自動的に割り当てられます。
- `{serviceType}` : リソースにはサービスタイプの省略形が含まれます (プライベートエンドポイントリソースにのみ有効)。

- `${resourceName}` : リソースにはターゲットリソースの名前が含まれます (プライベートエンドポイントリソースにのみ有効)。
- `${device}` : リソースにはレイヤ4〜レイヤ7デバイスの名前が含まれます。
- `${interface}` : リソースには、レイヤ4〜レイヤ7のデバイスインターフェイスの名前が含まれます。
- `${deviceInterfaceDn}` : リソースには、レイヤ7デバイスインターフェイスのDNが含まれます。

プライベートエンドポイントの場合、`${app}-${svcepg}-${subnet}-${serviceType}-${resourceName}` の組み合わせにより、プライベートエンドポイント名が一意になります。これらの変数のいずれかを削除すると、すでに存在するプライベートエンドポイントの名前になる場合があります。これにより、Cisco Cloud ネットワーク コントローラは障害を発生させます。また、最大長の要件は Azure サービスによって異なります。

1つ以上の上記の変数を使用してグローバル名前付けポリシーを定義すると、Cisco Cloud Network Controller はすべての必須変数が存在し、無効な文字列が指定されていないことを確認するために文字列を検証します。

Azureには名前の最大長の制限があります。名前の長さがクラウドプロバイダーでサポートされている長さを超えると、構成が拒否され、Cisco Cloud Network Controller リソースの作成に失敗したというエラーが発生します。その後、障害の詳細を確認し、命名規則を修正できます。Cisco Cloud ネットワーク コントローラ リリース5.0 (2) の時点での最大長の制限を以下に示します。最新の最新情報および長さ制限の変更については、Azure のドキュメントを参照してください。

次の表に、上記の各命名変数をサポートするクラウドリソースの概要を示します。アスタリスク (\*) で示されたセルは、そのタイプのクラウドリソースに必須の変数を示します。プラス記号 (+) で示されるセルは、これらの変数の少なくとも1つがそのタイプのクラウドリソースに必須であることを示します。たとえば、VNETリソースの場合、`${ctx}`、`${ctxprofile}`、またはその両方を指定できます。

表 1: クラウドリソースでサポートされる変数

Azure のリソース	<code>\${tenant}</code>	<code>\${ctx}</code>	<code>\${ctxprofile}</code>	<code>\${subnet}</code>	<code>\${app}</code>	<code>\${epg}</code>	<code>\${contract}</code>	<code>\${region}</code>	<code>\${priority}</code>
リソースグループ 最長 : 90	対応*	対応*						対応*	
仮想ネットワーク (VNET) 最長 : 64	対応	はい+	Yes+					対応	

命名ルールに使用できる変数

Azure のリソース	#{tenant}	#{ctx}	#{ctxprofile}	#{subnet}	#{app}	#{epg}	#{contract}	#{region}	#{priority}
Subnet 最長：80	はい	はい	はい	対応*				○	
アプリケーションセキュリティグループ (ASG) 最長：80	はい				対応*	対応*		○	
ネットワークセキュリティグループ (NSG) 最長：80	はい				対応*	対応*		○	
ネットワークセキュリティグループルール 最長：80	はい						はい		Yes* (自動)

表 2: クラウドリソースでサポートされる変数 (レイヤ4~レイヤ7デバイスサービス)

Azure のリソース	#{tenant}	#{region}	#{ctxprofile}	#{device}	#{interface}	#{deviceInterfaceN}
インターネットネットワークロードバランサ 最長：80	はい	はい	はい	対応*		

Azure のリソース	`\${tenant}`	`\${region}`	`\${ctxprofile}`	`\${device}`	`\${interface}`	`\${deviceInterfaceN}`
インターネット側のネットワークロードバランサ 最長：80	はい	はい	はい	対応*		
インターネットアプリケーションロードバランサ 最長：80	はい	はい	はい	対応*		
インターネット向けApplication Load Balancer 最長：80	はい	はい	はい	対応*		
デバイスASG 最長：80	はい	はい		対応*	対応*	対応*

## 命名ルールのガイドラインと制限事項

クラウドリソースの命名にカスタムルールを設定する場合、次の制限が適用されます。

- Cisco Cloud Network Controller の初回セットアップ時に、次の2つの命名ルールセットを使用して、グローバル命名ポリシーを定義します。
  - ハブリソース名前付けルールは、インフラテナントのハブリソースグループ、ハブVNET、オーバーレイ1 CIDR、オーバーレイ2 CIDRサブネットの名前、およびインフラテナントのシステムによって自動的に作成されるサブネットのサブネットプレフィックスを定義します。
  - クラウドリソース名前付けルールは、ネットワークセキュリティグループ (NSG)、アプリケーションセキュリティグループ (ASG)、ネットワークロードバランサ、アプリケーションロードバランサ、デバイスアプリケーションセキュリティグループ、およびインフラテナントで作成するサブネットの名前と名前を定義します。ユーザテナント内のすべてのリソース (リソースグループ、仮想ネットワーク、サブネット、NSG、ASG、ネットワークロードバランサ、アプリケーションロードバランサ)。

命名規則を定義したら、それらを確認して確認する必要があります。クラウドリソースを展開する前に、命名規則を確認する必要があることに注意してください。

- クラウドリソースが作成されると、その名前は変更できず、GUIで命名ポリシーを更新できません。Cisco Cloud Network Controller をリリース5.0(2)にアップグレードしたときに、一部のリソースがすでにAzureに導入されていた場合は、グローバルカスタム命名ルールを変更することもできません。

既存のクラウドリソースまたはポリシーの名前を変更する場合は、GUIでグローバル名前付けポリシーを更新する前に、展開されたリソースを削除する必要があります。

このような場合、REST APIを使用して、作成する新しいリソースにカスタム名を明示的に割り当てることができます。

- REST APIを使用してクラウドリソースの命名を更新する場合は、同時に設定をインポートしないことを推奨します。

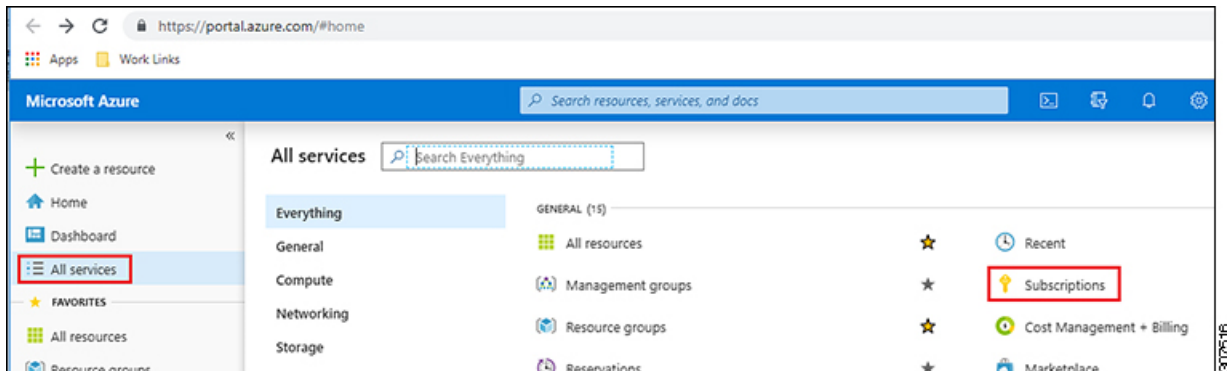
最初に命名規則を定義することをお勧めします。それからテナント設定も行ってください。

テナント設定の展開後は、命名ポリシーを変更しないことをお勧めします。

## Cisco Cloud Network Controller の IP アドレスの特定

次の手順では、Azure サイトで Cisco Cloud Network Controller の IP アドレスを検索する方法について説明します。

- ステップ 1** Azure 管理ポータルのメインページで、左側のナビゲーションバーの [すべてのサービス (All services)] リンクをクリックし、[サブスクリプション (Subscriptions)] リンクをクリックします。



- ステップ 2** Azure 管理ポータル [サブスクリプション (Subscriptions)] ページで、作成したサブスクリプションアカウントをクリックします。

そのサブスクリプションの概要情報が表示されます。

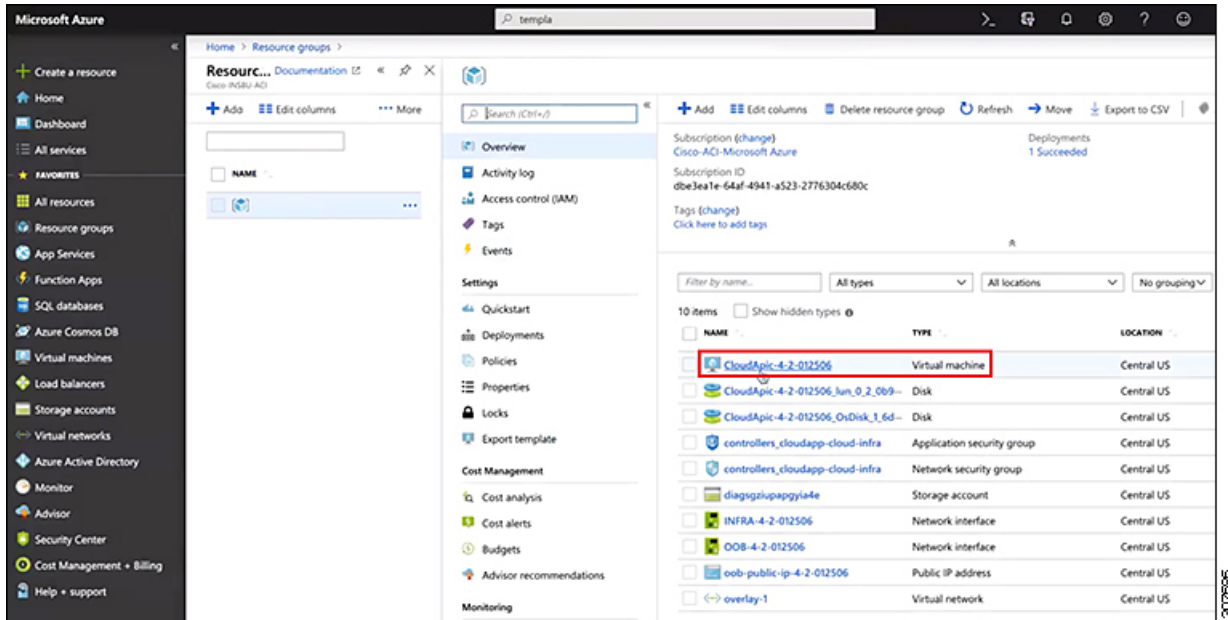
- ステップ 3** そのサブスクリプションの概要ページで、左側のナビゲーションバーにある [リソースグループ (Resource groups)] リンクを見つけ、そのリンクをクリックします。

そのサブスクリプションのリソースグループが表示されます。



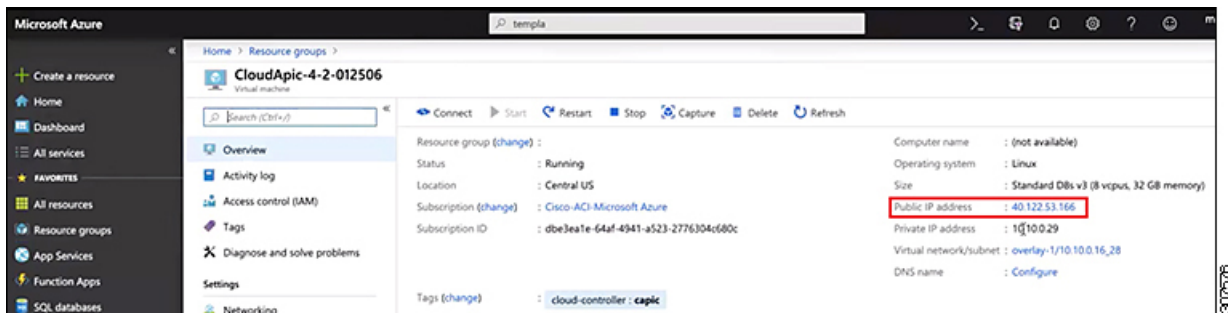
**ステップ 4** Azure での Cisco Cloud Network Controller の展開 で選択または作成したリソース グループを選択します。そのリソース グループの概要情報が表示されます。

**ステップ 5** リソース グループの概要ページで、Cisco Cloud Network Controller VM インスタンス ([タイプ (TYPE)] 列の下に [仮想マシン (Virtual machine)] と表示) を見つけ、その VM インスタンスのリンクをクリックします。



Cisco Cloud Network Controller VM インスタンスの概要情報が表示されます。

**ステップ 6** このページの [パブリック IP アドレス (Public IP address)] フィールドでエントリを見つければ、その IP アドレス エントリをコピーします。



これは、Cisco Cloud Network Controller へのログインに使用する Cisco Cloud Network Controller の IP アドレスです。

# セットアップウィザードを使用した Cisco Cloud Network Controller の構成

Cisco Cloud Network Controller のクラウドインフラストラクチャ構成をセットアップするには、このトピックの手順に従ってください。Cisco Cloud ネットワーク コントローラは、Azure コンストラクトと必要な Catalyst 8000V を自動的に展開します。

## 始める前に

このタスクの前提条件は次のとおりです。

- このセクションのタスクに進む前に、[Cisco ACI ファブリックをパブリック クラウドに拡張するための要件](#) に示されている要件を満たしています。
- [Azure での Cisco Cloud Network Controller の展開](#) に記載されている手順を正常に完了しました。

---

**ステップ 1** Cisco Cloud Network Controller の IP アドレスを特定します。

手順については、[Cisco Cloud Network Controller の IP アドレスの特定 \(8 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ 2** ブラウザ ウィンドウを開き、セキュアバージョンの HTTP (https://) を使用して、URL フィールドに IP アドレスを貼り付け、Return を押してこの Cisco Cloud Network Controller にアクセスします。

たとえば、https://192.168.0.0 と入力します。

[**リスクを無視して証明書を受け入れる (Ignore Risk and Accept Certificate)**] というメッセージが表示された場合は、証明書を受け入れて続行します。

**ステップ 3** Cisco Cloud Network Controller のログイン ページに次の情報を入力します。

- ユーザ名 : このフィールドに admin と入力します。
- [**パスワード (Password)**] : Cisco Cloud Network Controller にログインするために指定したパスワードを入力します。
- **ドメイン** : [**ドメイン (Domain)**] フィールドが表示された場合は、デフォルトの [**ドメイン (Domain)**] エントリをそのままにします。

**ステップ 4** ページの下部にある [**ログイン**] をクリックします。

(注) ログインしようとしたときに、REST エンドポイントのユーザ認証データストアが初期化されていないなどのエラーメッセージが表示された場合は、このファブリック ノードのファブリック メンバーシップ ステータスを確認し、数分待ってから数分後に再試行してください。また、ログインするためにページを更新する必要があります。

[Cisco Cloud Network Controller へようこそ (Welcome to Cisco Cloud Network Controller) ] セットアップウィザードのページが表示されます。

**ステップ 5** [セットアップの開始 (Begin Set Up) ] をクリックします。

[基本設定 (Let's Configure the Basics) ] ページが表示され、次の領域が設定されます。

- DNS サーバと NTP サーバ
- リージョン管理
- 詳細設定
- スマート ライセンス

**ステップ 6** [DNS と NTP サーバ (DNS and NTP Servers) ] 行で、[構成の編集 (Edit Configuration) ] をクリックします。

[DNS と NTP サーバ (DNS and NTP Servers) ] ページが表示されます。

**ステップ 7** [DNS と NTP サーバ (DNS and NTP Servers) ] ページで、必要に応じて DNS サーバと NTP サーバを追加します。

- DNS サーバはデフォルトですでに設定されています。特定の DNS サーバを使用する場合は、DNS サーバを追加します。
  - NTP サーバはデフォルトでは設定されないため、NTP サーバを設定することを推奨します。NTP サーバを設定し、DNS サーバを設定しない場合は、[7.d \(11 ページ\)](#) に進みます。
- 特定の DNS サーバを使用する場合は、[DNS サーバ (DNS Servers) ] 領域で [+ DNS プロバイダの追加 (+ Add DNS Provider) ] をクリックします。
  - DNS サーバの IP アドレスを入力し、必要に応じて [優先 DNS プロバイダー (Preferred DNS Provider) ] の横にあるボックスをオンにします。
  - DNS サーバの横にあるチェックマークをクリックし、追加する追加の DNS サーバについて繰り返します。
  - [NTP サーバ (NTP Servers) ] 領域で、[+ プロバイダの追加 (+ Add Provider) ] をクリックします。
  - NTP サーバの IP アドレスを入力し、必要に応じて [優先 NTP プロバイダー (Preferred NTP Provider) ] の横にあるボックスをオンにします。
  - NTP サーバの横にあるチェックマークをクリックし、追加する NTP サーバを繰り返します。

**ステップ 8** DNS サーバと NTP サーバの追加が完了したら、[保存して続行 (Save and Continue) ] をクリックします。

[Let's Configure the Basics] ページが再び表示されます。

**ステップ 9** [リージョン管理 (Region Management) ] 行で、[開始 (Begin) ] をクリックします。

[地域管理 (Region Management) ] ページが表示されます。

**ステップ 10** [内部ネットワークの接続 (Connectivity for Internal Network) ] エリア内の [仮想ネットワーク ピアリング (Virtual Network Peering) ] が自動的に有効化されていることを検証します。

グローバルレベルのVNetピアリングは、[内部ネットワークの接続 (Connectivity for Internal Network)] エリアで設定されます。これにより、Cisco Cloud Network Controller レベルでVNetピアリングが有効になり、Catalyst 8000V を使用してすべてのリージョンにNLBが展開されます。リリース5.1 (2) 以降では、グローバルレベルのVNetピアリングはデフォルトで有効になっており、無効にすることはできません。詳細については、[\[Azure 向け Cloud APIC の VNet ピアリングを構成する \(Configuring VNet Peering for Cloud APIC for Azure\)\]](#) を参照してください。

**ステップ 11** [管理するリージョン (Regions to Manage)] 領域で、Cisco Cloud Network Controller のホームリージョンが選択されていることを確認します。

クラウドサイトの設定時に選択したリージョンがホームリージョンであり、このページですでに選択されている必要があります。これは、Cisco Cloud Network Controller が展開されるリージョン (Cisco Cloud Network Controller によって管理されるリージョン) で、[リージョン (Region)] 列に「Cisco Cloud Network Controller」というテキストが表示されます。

(注) Azure VNet ピアリングは**ステップ 10**で自動的に有効化されているので、Cisco クラウド ネットワーク コントローラ ホームリージョンの Catalyst 10Vs クラウド ルータ (Cloud Routers) カラムのボックスがチェックを既にされていない場合、チェックする必要があります。

**ステップ 12** クラウドネットワークコントローラで追加のリージョンを管理します。他のリージョンで Inter-VNet 通信と Hybrid-Cloud、Hybrid Multi-Cloud、または Multi-Cloud 接続を行うように Cisco Catalyst 8000Vs を展開する場合は、追加のリージョンを選択します。

Catalyst 8000V は、Cisco Cloud ネットワーク コントローラが展開されているホームリージョンを含む 4 つまでのリージョンを管理できます。

Cisco Cloud Network Controller は、複数のクラウドリージョンを単一のサイトとして管理できます。一般的な設定では、サイトは APIC クラスタで管理できるすべてのものを表します。Cisco ACI Cisco Cloud Network Controller クラスタが 2 つのリージョンを管理する場合、これらの 2 つのリージョンは Cisco ACI から単一のサイトと見なされます。

リージョンにローカルにクラウドルータを展開するには、そのリージョンの **Catalyst 8000Vs** チェックボックスにチェックマークをつけるためにクリックします。VNET 間通信を行うには、少なくとも 1 つのリージョンに Catalyst 8000V が展開されている必要があります。ただし、このページで複数のリージョンを選択した場合は、選択したすべてのリージョンに Catalyst 8000V を設定する必要はありません。詳細については、「[サイト、リージョン、および CCR の数の制限について \(2 ページ\)](#)」を参照してください。

**ステップ 13** 適切なリージョンをすべて選択したら、ページの下部にある [Next] をクリックします。

[General Connectivity] ページが表示されます。

**ステップ 14** [General Connectivity] ページで次の情報を入力します。

a) [全般 (General)] 領域の [クラウドルータのサブネットプール (Subnet Pools for Cloud Routers)] フィールドで、Catalyst 8000V のサブネットを追加する場合は、[クラウドルータのサブネットプールの追加 (Add Subnet Pool for Cloud Routers)] をクリックします。

最初のサブネットプールが自動的に入力されます (System Internal として表示)。このサブネットプールのアドレスは、Cisco Cloud Network Controller で管理する必要がある追加のリージョンのリージョ

ン間接続に使用されます。このフィールドに追加するサブネットプールは、マスク/24の有効なIPv4サブネットである必要があります。

次の状況では、この手順で Catalyst 8000V のサブネットを追加します。

- Cisco Cloud Network Controller ホーム リージョンに Catalyst 8000V を展開している場合は、自動的に生成される [システム内部 (System Internal)] サブネット プールに加えて、1つのサブネット プールを追加します。
- 前のページで Cisco Cloud Network Controller により管理対象となる追加のリージョンを選択した場合：
  - 管理対象リージョンごとに 2~4 の Catalyst 8000V を持つすべての管理対象リージョンに 1つのサブネットプールを追加します (14.f (15 ページ) 内の [リージョンごとのルータの数 (Number of Routers Per Region)] フィールドに 2、3、または 4 を入力した場合)。
  - 管理対象リージョンごとに 5 つ以上の Catalyst 8000V があるすべての管理対象リージョンに 2つのサブネットプールを追加します (14.f (15 ページ) の [リージョンごとのルータの数 (Number of Routers Per Region)] フィールドに 5~8 を入力した場合)。

次に例を示します。

- 前のページで選択した Cisco Cloud ネットワーク コントローラ ホーム リージョンのみがあり、Cisco Cloud ネットワーク コントローラ ホーム リージョンに Catalyst 8000V が展開されているとします。2つのサブネットプール (自動的に入力されるシステム内部サブネットプールと、自分で作成した1つの追加サブネットプール) が必要です。
- 次に、前のページで管理対象として Cisco Cloud ネットワーク コントローラ の 2つの追加のリージョンを選択し、両方の追加のリージョンに Catalyst 8000V が展開されているとします。さらに、[リージョンごとのルータの数 (Number of Routers Per Region)] フィールド (14.f (15 ページ)) で、各管理対象リージョンに展開する 2~4 の Catalyst 8000V を選択するとします。この場合、2つの追加サブネットプール (前のページで選択された Catalyst 8000V をもつ各リージョンに対して 1つのサブネットプール) を追加して、合計 4つのサブネットプール (1つはシステム内部として自動的に入力され、もう 1つは自動的に作成されます) にする必要が生じます。
- 最後に、各管理対象リージョンの Catalyst 8000V の数を後日 8 個に増やし、このページに戻り、[リージョンあたりのルータ数 (Number of Routers Per Region)] フィールド (14.f (15 ページ)) の値を 8 に変更するとします。前の画面で 3つのリージョン (Cisco Cloud ネットワーク コントローラ ホーム リージョンと管理対象として選択した 2つの追加リージョン) があり、Cisco Cloud ネットワーク コントローラ の管理対象リージョンあたりの Catalyst 8000V の数が 4 を超えているため、3つのサブネットプールを追加する必要があります。ここでも、4 つ以上の Catalyst 8000V がある管理対象リージョンごとに 1つ、合計 7つのサブネットプールがあります。
  - 1つはシステム内部として自動的に入力されます。
  - ホームリージョンの Catalyst 8000V 用に 2つ (以前に作成したサブネットプールと、管理対象リージョンごとに Catalyst 8000V の数を 8 に増やしたときにもう 1つ作成)

- Cisco Cloud ネットワーク コントローラの管理対象として選択した2つの追加リージョンの Catalyst 8000V に4つ（以前に作成した2つのサブネットプールと、管理対象リージョンごとに Catalyst 8000V の数を8に増やしたときに作成した他の2つ）

- b) **[IPSec トンネル サブネット プール (IPSec Tunnel Subnet Pool) ]** 領域で、**[IPSec トンネル サブネット ツールの追加 (Add IPSec Tunnel Subnet Pools) ]** をクリックします。

**[IPSec トンネル サブネット ツールの追加 (Add IPSec Tunnel Subnet Pools) ]** ウィンドウが表示されます。

- c) 必要に応じて、IPSec トンネルに使用するサブネットプールを入力します。

このサブネットプールは、クラウドルータとブランチ オフィスまたは外部ネットワーク上のルーターとの間に IPSec トンネルを作成するために使用されます。このサブネットは、外部接続のため、IPsec トンネルインターフェイスとクラウドルータのループバックに対処するように使用されます。

このエリアの IPSec トンネルに使用するサブネットをさらに追加できます。サブネットがどのトンネルでも使用されていない場合は、このエリアのエントリを削除できます。

適切なサブネットプールを入力したら、チェックマークをクリックします。

- d) **Catalyst 8000V エリアの [C8kVs の BGP 自律システム番号 (BGP Autonomous System Number for C8kVs) ]** フィールドに、このサイトに固有の BGP 自律システム番号 (ASN) を入力します。

BGP自律システム番号は1-65534の範囲で指定できます。

次のMicrosoft Azure ASNの制限に注意してください。

- このフィールドでは、自律システム番号として64518を使用しないでください。
- 32ビットASNは使用しないでください。Azure VPNゲートウェイは、現時点で16ビットASNをサポートしています。
- 次のASNは、内部ピアリングと外部ピアリングの両方のためにAzureによって予約されています。
  - Public ASNs : 8074、8075、12076
  - Private ASNs : 65515、65517、65518、65519、65520

Azure VPNゲートウェイに接続するときに、オンプレミスVPNデバイスにこれらのASNを指定することはできません。

- 次のASNはIANAによって予約されており、Azure VPNゲートウェイで設定できません。23456、64496-64511、65535-65551、429496729<http://www.iana.org/assignments/iana-as-numbers-special-registry/iana-as-numbers-special-registry.xhtml>

- e) **[パブリック IP を C8kV インスタンスに割り当てる (Assign Public IP to C8kV Interface) ]** フィールドで、パブリック IP アドレスを Catalyst 8000V インターフェイスに割り当てるかどうかを決定します。

プライベート IP アドレスは、デフォルトで Catalyst 8000V インターフェイスに割り当てられます。

**[パブリック IP を C8kV インスタンスに割り当てる (Assign Public IP to C8kV Interface) ]** オプション

ンは、パブリック IP アドレスを Catalyst 8000V インターフェイスにも割り当てるかどうかを決定します。

Catalyst 8000V インターフェイス IP アドレスは次の目的で使用されます。

- Cisco Cloud ネットワーク コントローラ GUI の管理インターフェイスを介して Catalyst 8000V を構成できるようにする
- マルチクラウドおよびハイブリッドクラウド接続のために、サイト全体のインターフェイスをクロスプログラムできます。Cisco Nexus Dashboard Orchestrator
- コントロールプレーントラフィックとデータプレーントラフィックの両方の Catalyst 8000V の場合

デフォルトでは、この **[有効]** チェックボックスはオンになっています。これは、Catalyst 8000V にパブリック IP アドレスを割り当てられることを意味します。

- [パブリック (*public*) ] IP アドレスを Catalyst 8000V に割り当てる場合は、**[有効 (Enabled) ]** の横にあるチェックボックスをオンのままにします。
- プライベート IP アドレスのみを Catalyst 8000V に割り当てるには、オプションを無効化するために **[有効 (Enabled) ]** の横にあるチェックボックスをオフにします。

Catalyst 8000V 接続をプライベートからパブリック、またはその逆に変更すると、ネットワークが中断する可能性があることに注意してください。

(注) Catalyst 8000V に割り当てられたパブリック IP アドレスとプライベート IP アドレスの両方が、[クラウドリソース (Cloud Resources) ] 領域にルータの他の詳細とともに表示されます。パブリック IP が Catalyst 8000V に割り当てられていない場合は、プライベート IP だけが表示されます。

- f) **[リージョンあたりのルータ数 (Number of Routers Per Region) ]** フィールドで、各リージョンで使用する C8kV の数を選択します。

リージョンごとの Catalyst 8000V の数の制限の詳細については、[サイト、リージョン、および CCR の数の制限について \(2 ページ\)](#) を参照してください。

(注) 各リージョンで使用される Catalyst 8000V の数を増減させるためにフィールドの値を変更する場合、またフィールドの値を変更する前にスマートライセンス サーバーの登録が正しく同期するようオペレーションが完了するまで待ちます。

- Catalyst 8000V の数を減らす場合、フィールドの値をまた変更する前にそれらの Catalyst 8000V が削除されるまで待ちます。
- Catalyst 8000V の数を増やす場合、フィールドの値をまた変更する前にそれらの Catalyst 8000V が展開されるまで待ちます。

- g) **[ユーザー名 (Username) ]** に、Cisco Cloud Router のユーザー名を入力します。

(注) Azure クラウドサイトに接続する場合は、Cisco Cloud Router のユーザー名として admin を使用しないでください。

- h) [パスワード (Password)] に、Cisco Cloud Router のパスワードを入力します。  
 [Confirm Password] フィールドに、もう一度パスワードを入力します。
- i) [価格タイプ (Pricing Type)] フィールドで、2 種類のライセンス モデルのいずれかを選択します。
- (注) Azuru マーケットプレイスでライセンスを使用するには、**Catalyst 8000V Cisco DNA Essentials** と **Catalyst 8000V Cisco DNA Advantage** の 2 つの PAYG オプションがあります。Cisco Cloud Network Controller は、**Catalyst 8000V Cisco DNA Advantage** を利用します。

1. BYOL

2. PAYG

[BYOL 価格タイプ (BYOL Pricing Type)] の場合、手順は次のとおりです。

1. [ルータのスループット (Throughput of the routers)] フィールドで、Cisco Cloud Router のスループットを選択します。

Cisco Catalyst 8000V は、ティアベース (T0/T1/T2/T3) のスループット オプションをサポートしています。次の表に、シスコクラウドサービスルータ 8000v のさまざまなルータ スループット設定に必要な Azure VM のサイズを示します。

Catalyst 8000V のスループット	Azure VM サイズ
T0 (最大 15M のスループット)	DS3_v2
T1 (最大 100M のスループット)	DS3_v2
T2 (最大 1G のスループット)	DS3_v2
T3 (最大 10G のスループット)	F16s_v2

Tier2 (T2) は、Cisco Cloud Network Controller でサポートされるデフォルトのスループットです。

このフィールドの値を変更すると、展開されている Catalyst 8000V インスタンスのサイズが変更されます。スループットの値を高くすると、導入される VM のサイズが大きくなります。

次の点に注意してください。

- Catalyst 8000V のライセンスは、この設定に基づいています。準拠するには、Smart アカウントに同等以上のライセンスが必要です。詳細については、「[Azure パブリッククラウドの要件](#)」を参照してください。
- クラウドルータは、ルータのスループットまたはログインクレデンシャルを変更する前に、すべてのリージョンから展開解除する必要があります。

将来のある時点でこの値を変更することが必要になった場合は、Catalyst 8000V を削除してから、この章のプロセスを再度繰り返し、同じ [ルータのスループット (Throughput of the routers)] フィールドで新しい値を選択する必要があります。

2. 必要に応じて、[TCP MSS] フィールドに必要な情報を入力します。



[TCP MSS] オプションを使用すれば TCP 最大セグメントサイズ (MSS) を構成できます。この値は、データギガビットイーサネットインターフェイス、クラウドルータのIPSecトンネルインターフェイス、およびクラウド、オンプレミス、またはその他のクラウドサイトに対するVPNトンネルインターフェイスを含む、すべてのクラウドルータインターフェイスに適用されます。クラウドへのVPNトンネルの場合、クラウドプロバイダーのMSS値がこのフィールドに入力した値よりも小さい場合は、低い方の値が使用されます。それ以外の場合は、このフィールドに入力した値が使用されます。

MSS値はTCPトラフィックにのみ影響し、pingトラフィックなどの他のタイプのトラフィックには影響しません。

3. [ライセンス トークン (License Token) ] フィールドに、Cisco Cloud Router のライセンス トークンを入力します。

これは、シスコスマートソフトウェアライセンシングアカウントからの製品インスタンス登録トークンです。このライセンストークンを取得するには、に移動し、[Smart Software Licensing Inventory Virtual Account]に移動して、製品インスタンス登録トークンを見つけます。

<http://software.cisco.com> > > 詳細については、「Cisco Cloud Network Controller のライセンシング」を参照してください。

- (注) プライベート IP アドレスを 14.e (14 ページ) の Catalyst 8000V に割り当てた場合、プライベート IP アドレスを使用して Catalyst 8000V のスマート ライセンスを登録するときにサポートされる唯一のオプションは、[Cisco Smart Software Manager (CSSM) に直接接続 (Direct connect to Cisco Smart Software Manager (CSSM)) ] です。この場合、エクスプレスルート経由でCSSMに到達可能性を提供する必要があります。

[PAYG 価格タイプ (PAYG Pricing Type) ] の場合、手順は次のとおりです。

1. [VM タイプ] フィールドで、要件に応じていずれかの VM サイズを選択します。

Cisco Cloud Network Controller は、さまざまな VM タイプをサポートしています。以下の表は、使用可能な VM タイプのさまざまなインスタンスとその容量を示しています。

Azure 上の VmName	メモリー	vCPU の数	NetworkBw
DS3V2	14GiB	4	最大 3 ギガビット
DS4V2	28GiB	8	最大 6 ギガビット
F16SV2	32GiB	16	最大 12.5 ギガビット
F32SV2	64GiB	32	最大 16 ギガビット

- (注) 将来のある時点でこの値を変更する場合は、Catalyst 8000V を削除してから、この章のプロセスを再度繰り返し、同じ [VM] フィールドで新しい値を選択する必要があります。

このフィールドの値を変更すると、上の表にリストされている Catalyst 8000V の他の要素が変更されます。VM サイズの値を大きくすると、スループットが高くなります。

2. 必要に応じて、[TCP MSS]フィールドに必要な情報を入力します。

[TCP MSS] オプションを使用すれば TCP 最大セグメントサイズ (MSS) を構成できます。この値は、クラウドへの VPN トンネルとオンプレミスサイトまたは他のクラウドサイトへの外部トンネルを含む、すべてのクラウド ルータ インターフェイスに適用されます。クラウドへの VPN トンネルの場合、クラウドプロバイダーのMSS値がこのフィールドに入力した値よりも小さい場合は、低い方の値が使用されます。それ以外の場合は、このフィールドに入力した値が使用されます。

MSS値はTCPトラフィックにのみ影響し、pingトラフィックなどの他のタイプのトラフィックには影響しません。

(注) ユーザは、PAYG を選択する際にライセンス トークンを提供する必要はありません。

(注) BYOL でサポートされているすべての機能は、PAYG でサポートされます。

**ステップ 15** サイト間接続を設定するかどうかに応じて、適切なボタンをクリックします。

- サイト間接続を設定しない場合 ([リージョン管理 (Region Management)] ページで管理するリージョンを選択したときに [サイト間接続 (Inter-Site Connectivity)] を選択しなかった場合)、[保存して続行 (Save and Continue)] をクリックします。[Let's Configure the Basics] ページが再度表示されます。[セットアップウィザードを使用した Cisco Cloud Network Controller の構成 \(10 ページ\)](#) にスキップします。
- サイト間接続を設定する場合 ([リージョン管理 (Region Management)] ページで管理するリージョンを選択したときに [サイト間接続 (Inter-Site Connectivity)] を選択した場合)、ページの下部にある [次へ (Next)] をクリックします。[サイト間 Connectivity] ページが表示されます。

**ステップ 16** [サイト間接続 (Inter-Site Connectivity)] ページに次の情報を入力します。

- **IPSec Tunnels to Inter-Site Routers** : このフィールドは、クラウドサイトへのオンプレミス接続にのみ必要です。オンプレミスサイトがない場合は、このフィールドに情報を入力する必要はありません。  
この領域で、[Add Public IP of IPsec Tunnel Peer] フィールドの横にある [+] ボタンをクリックします。
  - オンプレミス デバイスへの IPSec トンネル終端のピア IP アドレスを入力します。
  - このピア IP アドレスを追加するには、チェック マークをクリックします。
- **OSPF Area for Inter-Site Connectivity** : オンプレミス ISN ピアリングで使用されるアンダーレイ OSPF エリア ID を入力します (0.0.0.1 など) 。
- **[External Subnets for Inter-Site Connectivity]** 見出しの下で、[+ Add External Subnet] フィールドの横にある [+] ボタンをクリックします。
  - Azure で使用されるサブネットトンネルエンドポイントプール (クラウドTEP) を入力します。これは、/16 ~ /22 のマスクを持つ有効な IPv4 サブネットである必要があります (30.29.0.0/16 など)。このサブネットは、オンプレミス接続に使用されるクラウドルータの IPSec トンネルインターフェイスおよびループバックに対処するために使用され、他のオンプレミス TEP プールと重複することはできません。

- 適切なサブネットプールに入力したら、チェックマークをクリックします。

**ステップ 17** すべての接続オプションを設定したら、ページの下部にある[次へ (Next) ]をクリックします。

[クラウドリソース命名規則 (Cloud Resource Naming Rules) ] ページが表示されます。

**ステップ 18** [Cloud Resource Naming mode]を選択します。

Cisco Cloud Network Controller でグローバルネーミングポリシーを作成できます。これにより、Cisco Cloud Network Controller から Azure クラウドに展開されたすべてのオブジェクトのカスタムクラウドリソース命名規則を定義できます。命名規則、使用可能なオブジェクト名変数、ガイドライン、および制限事項の詳細については、この章の前の項を参照してください。 [クラウドリソースの命名 \(3 ページ\)](#)

次のいずれかを選択できます。

- **[デフォルト (Default) ]** : Azure の Cisco Cloud Network Controller によって作成されたクラウドリソースには、ACI オブジェクトの名前から派生した名前が割り当てられます。たとえば、リソースグループの名前はテナント、VRF、およびリージョンに基づいて作成されます：

```
CAPIC_<tenant>_<vrf>_<region>。
```

- **[カスタム (Custom) ]** : 各クラウドリソースの命名方法について独自のルールを定義できます。

カスタム命名を選択すると、各クラウドリソースの横に[編集 (Edit) ]アイコンが表示されます。編集アイコンをクリックして、表示される1つ以上のリソースの命名規則を定義できます。

このタイプのリソースで使用可能な変数は、命名規則テキストボックスの下に表示されます。変数は必須キーワードとオプションキーワードに分かれています。更新するルールの必須キーワードをすべて含める必要があります。たとえば、Azure のリソースグループの命名ルールを定義する場合は、テナント名、VRF名、および地域キーワードを含める必要があります。

**ステップ 19** グローバルリソース命名ポリシーを確認し、受け入れたことを確認します。

クラウドリソースが作成されると、その名前は変更できません。したがって、クラウドリソースを展開する前に、前の手順で定義したグローバル名前付けポリシーを確認して受け入れる必要があります。準備ができたなら、[これらの命名規則に基づいてクラウドリソースを展開する (Deploy cloud resources based on these rules) ]チェックボックスをオンにします。

チェックボックスをオフのままにして続行することもできます。この場合、変更は保存されますが、設定は展開されません。展開する命名ポリシーを受け入れるには、この画面に戻る必要があります。

**ステップ 20** このページに必要な情報をすべて入力したら、ページの下部にある[保存して続行 (Save and Continue) ]をクリックします。

[Let's Configure the Basics] ページが再度表示されます。

**ステップ 21** [詳細設定 (Advanced Settings) ] 行で、[構成の編集 (Edit Configuration) ] をクリックします。

[Advanced Settings] ページが表示されます。

**ステップ 22** [詳細設定 (Advanced Settings) ] ページで必要な構成を行います。

- **[コントラクトベースのルーティング]** コントラクトベースのルーティング設定は、現在の内部 VRF ルートリークポリシーを反映しています。これは、インフラテナントの下のグローバルポリシーであり、ブールフラグを使用して、コントラクトがルートマップがない場合にルートを駆動できるかどうかを示します：

- **オフ**（はいボックスにチェックが入っていない）：デフォルト設定。ルートが契約に基づいてリークされておらず、代わりにルートマップに基づいてリークされていることを示します。
- **オン (On)**（はいボックスにチェックが入っている）：ルートマップが存在しない場合に、契約に基づいてルートが漏洩していることを示します。有効に設定されている場合、ルートマップが構成されていないときに、ドライブ回送を契約します。ルートマップが存在するときに、ルートマップは常にドライブ回送です。

- **[クラウドネットワークコントローラアクセス権限 (Cloud Network Controller Access Privilege)]**：デフォルトで **[ルーティングとセキュリティ (Routing & Security)]** に設定されています。

アクセスポリシーを変更する場合は、**[Cisco クラウドネットワークコントローラアクセス権限 (Cisco Cloud Network Controller Access Privilege)]** フィールドのスクロールダウンメニューをクリックし、VPC (クラウドコンテキストプロファイル) レベルで適用するアクセスポリシーの1つを選択します。

- **ルーティングとセキュリティ**：デフォルトのアクセスポリシー。Cisco Cloud ネットワークコントローラにアクセスポリシーを割り当てない場合、Cisco Cloud ネットワークコントローラには、デフォルトでルーティングとセキュリティのアクセスポリシーが適用されます。

ルーティングとセキュリティアクセスポリシーを Cisco Cloud ネットワークコントローラに割り当てることは、ルーティングとセキュリティを制御できる完全な権限を持っていることを意味します。

- **ルーティングのみ**：ルーティングのみのアクセスポリシーを Cisco Cloud ネットワークコントローラに割り当てることは、ルーティングポリシーとネットワーク接続のみを制御できることを意味します。

**ステップ 23** [保存して続行 (Save and Continue)] をクリックします。

[基本を構成しましょう (Let's Configure the Basics)] ページに戻ります。

**ステップ 24** [スマートライセンス] 行で、[登録] をクリックします。

[スマートライセンス] ページが表示されます。

**ステップ 25** [スマートライセンス] ページに必要な情報を入力します。

Cisco Smart Licensing は、複数のシスコ製品間でソフトウェアライセンスを管理する統合ライセンス管理システムです。お使いの Cisco Cloud Network Controller を Cisco Smart Licensing に登録するには、以下のようになります。

- 製品がインターネットにアクセスできること、またはネットワーク上にインストールされた Smart Software Manager サテライトにアクセスできることを確認してください。
- スマートアカウントにログインします。

- Smart Software Manager: <https://software.cisco.com/>
- Smart Software Manager サテライト: <https://www.cisco.com/c/en/us/buy/smart-accounts/software-manager-satellite.html>
- この製品インスタンスで使用するライセンスが含まれている仮想アカウントに移動します。
- 製品インスタンスの登録トークン（これによりスマートアカウントを識別）を生成し、そのトークンをコピーするか、または保存します。

スマートソフトウェアライセンスの詳細については、<https://www.cisco.com/go/smartlicensing> を参照してください。

**ステップ 26** このページに必要なライセンス情報を入力した場合は、ページの下部にある **[登録 (Register)]** をクリックします。評価モードで続行する場合は、**[評価モードで続行 (Continue in Evaluation Mode)]** をクリックします。

**[概要 (Summary)]** ページが表示されます。

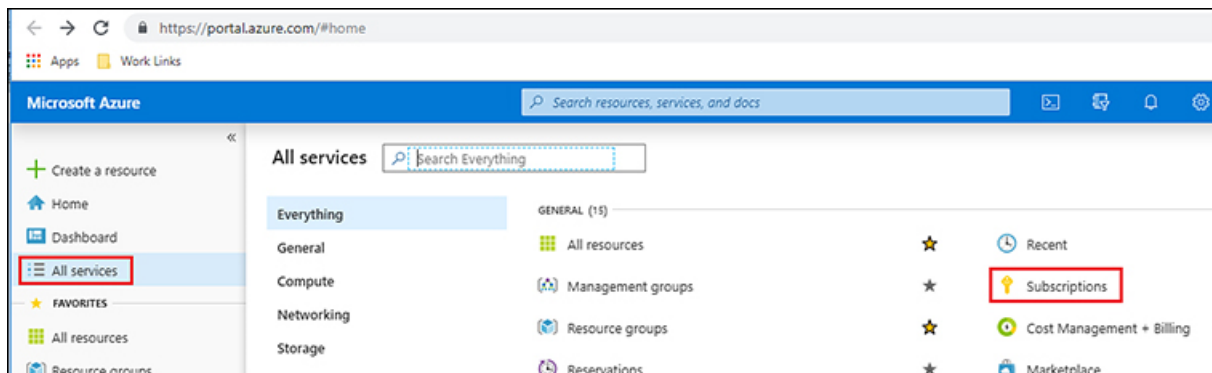
**ステップ 27** **[サマリ (Summary)]** ページで情報を確認し、**[完了 (Finish)]** をクリックします。

この時点で、Cisco Cloud Network Controller の内部ネットワーク接続の設定は完了です。

Cisco Cloud Network Controller を初めて展開する場合は、このプロセスが正常に完了するまでにかかなりの時間（30分程度）がかかることがあります。

**ステップ 28** Catalyst 8000V が正常に展開されたことを確認します。

- Azure 管理ポータル（portal.azure.com）のメインページで、左側のナビゲーションバーの **[すべてのサービス (All services)]** リンクをクリックし、**[サブスクリプション (Subscriptions)]** リンクをクリックします。



- Azure 管理ポータル（portal.azure.com）の **[サブスクリプション (Subscriptions)]** ページで、作成したサブスクリプションアカウントをクリックします。

そのサブスクリプションの概要情報が表示されます。

- そのサブスクリプションの概要ページで、左側のナビゲーションバーにある **[リソースグループ (Resource groups)]** リンクを見つけ、そのリンクをクリックします。

そのサブスクリプションのリソースグループが表示されます。

- d) [カスタム導入 (Custom deployment) ]ページで選択または作成したリソースグループを選択します。  
[Azure での Cisco Cloud Network Controller の展開](#)  
そのリソースグループの概要情報が表示されます。
- e) リソースグループの概要ページで、Catalyst 8000V VMインスタンス ([TYPE] 列の下に [仮想マシン (Virtual machine) ])と表示)を見つけ、そのVMインスタンスのリンクをクリックします。  
Catalyst 8000V VM インスタンスには、ct\_routerp\_region\_x\_0 フォーマットの名前が付けられます。ここで、
- regionは管理対象リージョンです (たとえば、westus、westus2、centralus、またはeastus)。
  - x は、ゼロから始まる Catalyst 8000V のカウントです。
- 例 : ct\_routerp\_centralus\_0\_0またはct\_routerp\_centralus\_1\_0  
Catalyst 8000V VM インスタンスの概要情報が表示されます。
- f) ページの左上にある[ステータス (Status) ]フィールドを見つけます。
- [ステータス (Status) ]フィールドに [作成中 (Creating) ]というテキストが表示される場合は、Catalyst 8000V がまだ完全に展開されていません。
  - [ステータス (Status) ]フィールドに [実行中 (Running) ]というテキストが表示された場合は、Catalyst 8000V が完全に展開されています。

## 次のタスク

Cisco Cloud Network Controller サイトとともに追加のサイトを管理するかどうかを決定します。

- Cisco Cloud Network Controller サイトとともに追加のサイト (オンプレミス サイトまたはクラウドサイト) を管理する場合 ([リージョン管理 (Region Management) ]ページで [サイト間接続 (Inter-Site Connectivity) ]オプションを選択した場合)、[マルチサイトを介した Cisco Cloud Network Controller の管理](#)に進みます。
- Cisco Cloud Network Controller サイト以外には他のサイトを管理しない、クラウドファースト構成をセットアップする場合 ([リージョン管理 (Region Management) ]ページで [クラウドルータ (Cloud Routers) ]オプションのみを選択した場合)、追加構成用のマルチサイトを使用する必要はありません。ただし、この場合、Cisco Cloud Network Controller GUIで追加の構成を実行する必要があります。

また、[Cisco Cloud Network Controller GUI を使用したテナントの作成](#)の手順に従い、Cisco Cloud Network Controller GUIを使用してテナントを作成する必要もあります。

Cisco Cloud Network Controller GUIの [グローバル作成 (Global Create) ]オプションを使用して、次のコンポーネントを設定します。

- テナント
- アプリケーション プロファイル

- EPG

詳細については、「[Cisco Cloud Network Controller GUI のナビゲート](#)」と「[Cisco Cloud Network Controller コンポーネントの構成](#)」を参照してください。

## Cisco Cloud Network Controller セットアップウィザードの構成の確認

このトピックの手順に従って、Cisco Cloud Network Controller セットアップウィザードに入力した構成情報が正しく適用されていることを確認します。

---

Cisco Cloud Network Controller で、次の設定を確認します。

- [Cloud Resources]で、[Regions]をクリックし、選択したリージョンが[Admin State]列に管理対象として表示されていることを確認します。
- [Infrastructure]で[Inter-Region Connectivity]をクリックし、この画面の情報が正しいことを確認します。
- [Infrastructure]で、[Inter-Site Connectivity]をクリックし、この画面の情報が正しいことを確認します。
- [ダッシュボード (Dashboard)] をクリックし、オンプレミス接続ステータスおよびリージョン間接続ステータスボックスの情報をを使用してセットアップウィザードとトンネル設定が適切であることを確認します。

---

### 次のタスク

に示す手順を使用して、マルチサイト設定を完了します。[マルチサイトを介した Cisco Cloud Network Controller の管理](#)





## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。